
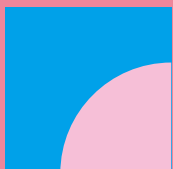
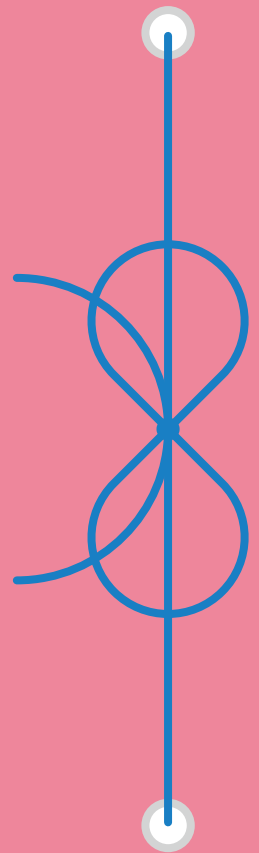


いいね! 

| 愛媛大学ロールモデル集② |

# ハッピーライフ

Women's Future Development Center, Ehime University





## ～女性研究者編～



愛媛大学大学院 医学系研究科看護学専攻 教授

### 濱 耕子先生

女性の健康を擁護する立場から、妊娠しながら女性が働き子育てをするには、周囲の理解やその環境が必要であることを伝えていますが、欲を言えばその機会にワーク・ライフ・バランスやそのための社会づくりについても考えてもらいたいという期待があります。少子化が続くなか企業

#### 学生に向けて

女性の健康を擁護する立場から、妊娠しながら女性が働き子育てをするには、周囲の理解やその環境が必要であることを伝えていますが、欲を言えばその機会にワーク・ライフ・バランスやそのための社会づくりについても考えてもらいたいという期待があります。少子化が続くなか企業

三年前、家族と共に愛媛入りしました。臨床経験を経て大学院以来、今回のようなワーク・ライフ・バランスに関連する「女性の就業や子育て」を研究テーマに取り組んでいます。普段は看護学生に対して、昨年からは共通教育でライフスキル教育として女性の健康やセクシリアリテイ等も含め幅広く教えています。最近、女性医師を取り巻く就業・育児支援への期待、助産師職への社会の期待について講演する等、医療従事者にもワーク・ライフ・バランスの要素を取り入れながら話す機会が多くなりました。

現在の状況について  
三年前、家族と共に愛媛入りしました。臨床経験を経て大学院以来、今回のようなワーク・ライフ・バランスに関連する「女性の就業や子育て」を研究テーマに取り組んでいます。普段は看護学生に対して、昨年からは共通教育でライフスキル教育として女性の健康やセクシリアリテイ等も含め幅広く教えています。最近、女性医師を取り巻く就業・育児支援への期待、助産師職への社会の期待について講演する等、医療従事者にもワーク・ライフ・バランスの要素を取り入れながら話す機会が多くなりました。

#### 現在の状況について

育児経験で変化したこと  
つわりのつらさは先輩助産師が妊娠しても、教科書で教えていてもわからなかった体験でした。だからこそ無事な出産にその後の生活に感謝の気持ちが溢れました。以前は片方が働かないと育児休業は取れなかったため、夫にその間働いてもらいました。自分が仕事で夫を待たせるのは平気なのに、なぜか自分が夫の帰りを待つのは寂しかったです。育児の負担感は主婦に多いというデータに対して、なるほどと納得しました。大学教員の立場で復職はスムーズでしたが、誰もが母性看護学の教鞭をとることができないため職責は感じました。夫が

私の選んだベストバランスは  
家族や周囲の理解があつてこそ。

#### 仕事・育児以外の生活について

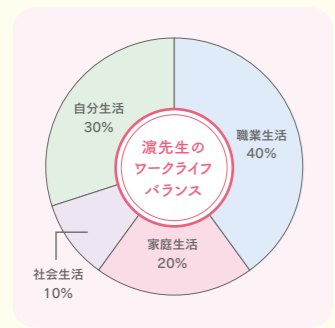
核家族なので実家には長期休暇を利用して行きます。親きょうだいから喜ばれ、家族の絆を感じます。日頃は主人と娘で近場でも一緒に行動し、愛媛の素晴らしい温泉でリラックスしています。買い物に行く

育児を担っており普段の仕事には安心して取り組んでいます。物事の捉え方は育児により大らかになったと思います。若い頃はまとめて取らないと休んだ気になりませんでした。今は、好きなテレビ番組を見るまでやるべきことを頑張ろうと思えたり、明日が来ることに楽観的になれる自分があります。



努力でも個人単位でもワーク・ライフ・バランスを通じて、生活を振り返ったり様々な価値観にふれることが求められているように思います。看護学科においては男子学生が増えてきましたが、私自身は男だから女だからという見方はしていません。高学歴社会で不景気が続いており、男女問わず働く動機も多様化しています。これからの学生さんには働くまでにひとつでも自己実現をする機会が大切だと感じています。

ワーク・ライフ・バランスの割合 ++++++



## 愛媛大学ロールモデル集②

### CONTENTS

- ◎女性研究者編 ..... 1
- ◎男の育児編 ..... 2
- ◎仕事と介護編 ..... 3
- ◎研究と遠距離結婚編 ..... 4
- ◎院生×卒業生座談会 ..... 5
- ◎研究支援員制度利用者編 ..... 7
- ◎学長インタビュー編 ..... 8
- ◎院生×卒業生座談会編 その2 ..... 9
- ◎事業説明 ..... 11

この冊子は愛U30号～33号に挟み込みした記事「いいね! Happy Life」vol.1～vol.4に、追加記事を加えたものです。紹介しているのは年齢や経験もさまざまな先生や先輩たちですが、それぞれのライフスタイルに良い・悪いはありません。多様なワーク・ライフ・バランスを知って、自分と違うライフスタイルの人にも「いいね!」を付けてみませんか?







## ～仕事と介護編～



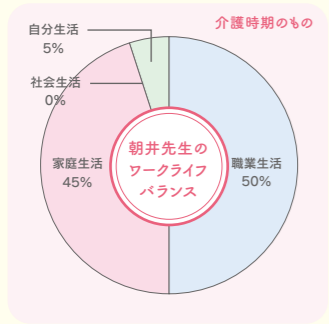
愛媛大学法文学部 准教授  
**朝井 志歩**先生

**当時の状況について**  
当時は複数の大学で非常勤講師をしていて、3つの異なる職場に片道2～3時間かけて通勤していました。そんな中、父が急遽入院し、5年7ヶ月間、母と交代で父のお見舞いのために病院に通い、「三回通いました。」  
父が入院した当初、私は大学院の博士後期課程に在籍していたため、フィールドワークをして博士論文を執筆しなければならぬ状況でした。博士号を取得できたのですが、非常勤講師の仕事と自分の研究と父の介護の両立は大変でした。  
父はずっと入院していたため完全看護であり、家族はお見舞いに行つて、食事介助をしながらおしゃべりをしていました。寝たきりではあったものの、意識ははっきりと

**仕事と研究と介護の日々が教えてくれたこと。**  
**介護と仕事の両立について**  
当時私も母も働いていたため、父の年金を介護費用に費やせたため、介護にかかる費用のために家計が経済的に破綻することはありませんでした。また、仕事があったからこゝろ、介護でたまるストレスを仕事で発散できていたのだと思います。このような、公的な社会保障制度を活用できて家計が経済的に破綻しないこと、介護者が介護に専念せずに仕事を持つこと、介護から離れた

**学生に向けて**  
介護に専念するために仕事を辞めてはいけません。自分の生活費を自分で賄い、介護から離れた自分の時間を確保してストレスを発散し、自分の人生を破綻させないためにも、仕事は必要です。  
年金、健康保険、介護保険制度、高額

### ワーク・ライフ・バランスの割合 +++++



自分の時間を持つことが、介護の継続のために必要だと思えます。  
介護経験を通じて感じたことは、「家族の決断の重み」でした。入院直後やその後何回か父が意識不明に陥り病状が悪化するたびに「治療を続けるか否か」「どんな治療を求めるのか」などについて、母と私は父の主治医と面談し、母と私が最終的に決定しなければなりません。悪化する病状を直視し、家族としての決断を迫られることが、精神的に重い負担となりました。  
そして、介護が育児とは大きく異なるのは、「介護が終わる時は家族の死と向き合う時だ」ということです。少しずつ衰えていく姿に寄り添い、見つめ続けることこそが介護であり、それはお別れのための長い時間でした。  
介護を通して気づいたのは、「老いた親の介護をする生き物は、人間だけだ」ということです。人間が人間となってきた過程の中で、病んだ者や老いた者を見捨てず労わる文化が育まれてきた理由に思いをはせ、介護という過酷な日々を乗り切ってください。



**子どもでできた「父親スイッチ」がオンにそれは我慢ではなく、自然な変化でした。**  
**現在の状況について**  
主に回生(約千名)の共通教育科目の英語を担当しています。そのうち、毎年二百名分を担当しているため、愛大生の欲しい10人中一人は、僕の授業を受けている計算になります。  
息子の保育所送迎が白課で、たまに様子を見に行くことと楽しんで遊んでいます。平日は朝と夕方以降しか一緒に入れないので休日は一緒に過ごすようにしています。

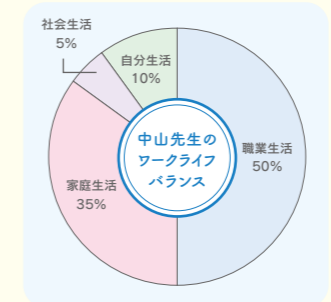


教育・学生支援機構 英語教育センター 准教授  
**中山 晃**先生



**育児経験で変化したこと**  
息子が誕生してからは、生活も気持ちも子供がメインにガラッと変わりました。それに結構体力も必要。仕事をする時間を確保するために、きっちり時間配分を考えるようになり、仕事の効率は上がりました。英語教育センターは子育て中の先生もいたりして、理解を得やすい雰囲気だと思っています。  
妻は一人目の妊娠で産休中ですがそれまでは協力して買い物や食事の準備を

### ワーク・ライフ・バランスの割合 +++++



### 妻からのひとこと

共働きで、お互いの両親とも離れているので、子育てに協力的で助かっています。大学の保育園なので、送迎はほとんど任せていて、夕飯を用意してくれることもあり、大変助かっています。

**周囲の理解や制度を活用してイクメンな自分を「選び取る」。**  
**現在の状況について**  
今年二月に「この世で一番かわいい娘」が生まれてからは、妻と娘の居る関西に毎週末通い、お風呂やミルクなどできるだけのことをしていきます。  
それでも研究のペースが落ちていないのは、上司や同僚の配慮と実家のサポートのおかげです。妻が同領域の研究者なので、お互い職業生活を理解しあえるのも強みです。  
**学生に向けて**  
自分の身を守るワーク・ライフ・バランスや社会保障について、目とくとなつてください。理系の学生は、社会制度を学ぶ機会が少ないと思うのでなおさらです。また、どんな進路でも大学を出る時が人生で一番重要な選択になると思います。慎重かつ大胆に「選び取る力」を付けてください。ただし結婚は勢いも大事です。僕は積極的に選択しました(笑)。

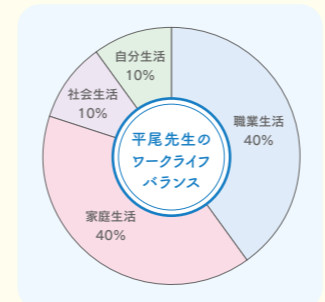


教育・学生支援機構 学生支援センター 講師  
**平尾 智隆**先生



**育児経験で変化したこと**  
一番のメリットは「子どものために頑張ろう」と仕事に張りがでること。経済学者の視点としては、育児で失う時間は研究に対するコストとして計上しなければいけません。子育ての面白さに比べればたいしたことじゃない。今の瞬間に得られることの方が大きいと思っています。労務管理を理解する意味でも育休の取得を検討していますが、休業期間と収入のバラ

### ワーク・ライフ・バランスの割合 +++++



### 妻からのひとこと

「ふたりで子育てをしよう」と言われる通り、一緒に楽しく育児をしています。仕事が忙しいなか、頑張ってくれて帰ってきてくれるととても子煩悩なお父さんです。





## ～院生×卒業生座談会～



愛媛大学理工学研究科OG  
光澤さんの講演

**座談会メンバー**  
光澤 安衣子さん(旧姓 戸田)  
愛媛大学理工学研究科OG。在学中は動物プランクトンの研究に力を注ぐ。高校で講師勤務、博士課程進学を経て、愛媛県総合科学博物館「指定管理者」イヨテック「サービスマン」企画普及グループチームリーダー・学芸員として勤務。  
サイエンスひめこ(理系女子学生チーム) 小倉さん  
理工学研究科二回生(理学部系)。理系分野ではない、いわゆる「文系就職」。

渡邊さん  
理工学研究科二回生(工学部系)。専門分野とは直接関連のない企業に就職予定。  
**就活は「なんでもやります」**  
小倉 学芸員の仕事に就くまでに、学校講師や博士課程進学など様々な経緯を経てこられていますが、就職活動ではどんなことをしましたか？  
光澤 周囲には「修士・博士課程の進学には覚悟が必要」という声もありましたが、私にとっては自分の興味のない仕事に就く方が、覚悟のいることでした。学部四回生

**進学、就職、結婚について**  
リケジョだからできることって？  
「大学院に行って良かったこととは？」「就職先に今の研究は活かせるの？」  
そんな進路に関する疑問を持った学生の皆さんを対象に、大学院進学をテーマにしたセミナーを開催しました。大学院進学を選んだ卒業生と現役院生による座談会では、それぞれの経験や院生生活についてなどが語られました。  
参加した学生の皆さんからの質問も多く寄せられ、大いに盛り上がりました。

光澤 「これがやりたい！」と、それが見ていない人が、その仕事に就けないということが周りであったので、「もしかしてそれじゃいけないのかも」と思うようになりました。  
渡邊 自分では今の仕事に就けたポイントは何だったかと思えますか？  
光澤 やはり「何でもできます」が大きかったと思います。私はあくまで博物館を運営する会社を受けたので、何でもやるという人の方が良いだろうと。実際何でもやっていますし、楽しいです。  
光澤 お二人の就活はどんな感じでしたか？  
小倉 私にも例にもれず「理系の就活なら



光澤 「これやりたい！」と、それが見ていない人が、その仕事に就けないということが周りであったので、「もしかしてそれじゃいけないのかも」と思うようになりました。  
渡邊 自分では今の仕事に就けたポイントは何だったかと思えますか？  
光澤 やはり「何でもできます」が大きかったと思います。私はあくまで博物館を運営する会社を受けたので、何でもやるという人の方が良いだろうと。実際何でもやっていますし、楽しいです。  
光澤 お二人の就活はどんな感じでしたか？  
小倉 私にも例にもれず「理系の就活なら



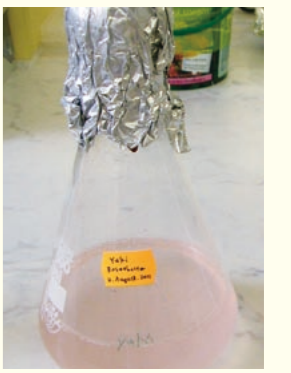
## ～研究と遠距離結婚編～



沿岸環境科学研究センター 研究員  
高部 由季さん

**現在の状況について**  
私は今年三月まで北海道大学で学生をしていました。博士後期課程、いわゆるドクターの学生でした。研究テーマは学生時代から今も、海に生きる酸素非発生源好気性光合成細菌という生き物を研究しています。この細菌は、光合成を行います。有機物を使って従属栄養的に増殖もしますが、光エネルギーと有機物の両方を利用して生きるこの細菌が、海でどのようにその両者を利用して生きているのか？について、研究しています。船に乗って海水を採取して調べたり、実験室で培養実験をしたり、海外出張し、現地の研究者の方と共同で研究したりすることもあります。  
また、昨年三月に結婚をしました。当時、夫は東京で、私は北海道でドクターの学生

をしていました。研究職は土地をなかなか選べません。「研究出来る土地に行く」という場合が多いので、今後いつ同じ土地で暮らせるのだろうかという思いがお互いにありました。「いつか結婚するのなら、いっそのこと今、しようか」ということになり、お互いの両親の理解と協力もあり学生結婚をしました。しかし今も、夫は東京、私は愛媛という訳で、離れたなれの新婚生活が続いています。  
**研究者になって**  
学生時代は、酸素非発生源好気性光合成細菌という生き物のことを研究することに、何か不思議なこだわりがありました。今でも、どうしてこんなに自分は、この生き物が好きなのか、分かるようになりません。学生時代は、自分の信じた研究を思い切り

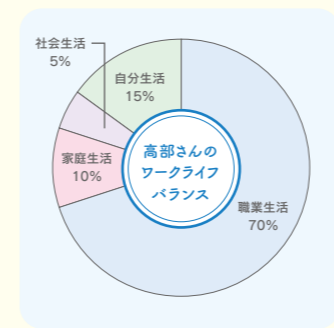


出来る、非常に貴重な期間だと思っています。私にとって、この学生時代に感じた研究への思いが、卒業後も研究を続けていく道を選ばせました。分からないことが分かる喜び、そして、またさらに分からないことを分らないと思える楽しさ。また、研究のもう一つの醍醐味は、それを他の人と分かち合い、共に楽しめることだと思っています。  
**仕事以外の生活について**  
仕事とそれ以外の生活との間で気分転換をするほど、過し方を変えてはいないのですが、疲れた時はしっかり休むようにしています。半日くらい何も考えないと、次第にやる気が戻ってきます。  
**学生に向けて**  
私自身、今のワークライフバランスが自分にとって良いのか、常に悩んでいます。夫と別居中で、現在、一人暮らしなので、家庭生活の割合が非常に低いです。今後の生活を考えた時、夫との別居生活がいつまで続くのか、研究職を続けていけるのか、それでも、今は目の前の研究を存分に楽しもうと決めています。その先に、自分にとっての最善の答えがあると信じて、大切に、研究員としての日々を過ごしていこうと思えます。



の時も一応化粧品や食品関係の企業を受けたりしましたが、そんな調子で受かるはずありませんよ。  
その後は博士課程に進学しつつも、ずっと学芸員になりたいと思っていたので、募集に飛びついたという感じです。  
二回の就職活動には大きな違いがありました。学部生の頃は、「これができます」というアピールをしていましたが、ドクターに進み、分野が専門的になればなるほど「私、何でもやります」というようになりました。  
小倉 そう思ったのは、いろいろな経験を積んできたからですか？ 自信がついたからとか。  
光澤 「これがやりたい！」と、それが見ていない人が、その仕事に就けないということが周りであったので、「もしかしてそれじゃいけないのかも」と思うようになりました。  
渡邊 自分では今の仕事に就けたポイントは何だったかと思えますか？  
光澤 やはり「何でもできます」が大きかったと思います。私はあくまで博物館を運営する会社を受けたので、何でもやるという人の方が良いだろうと。実際何でもやっていますし、楽しいです。  
光澤 お二人の就活はどんな感じでしたか？  
小倉 私にも例にもれず「理系の就活なら

ワーク・ライフ・バランスの割合 ++++++







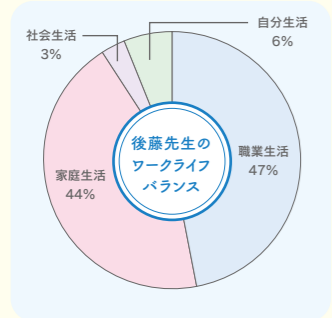
## ～研究支援員制度利用者編～



愛媛大学南予水産研究センター 准教授（特定教員）

後藤 理恵先生

ワーク・ライフ・バランスの割合 ++++++



**現在の状況について**

昨年七月に北海道大学から愛媛大学に赴任してまいりました。現在、単身で三人の子供（10歳、8歳、5歳）を育てながら、新養殖魚種開発や魚類の生殖に関する研究に携わっています。生物相手の研究は、時には昼夜関係なく従事しなければなりません。ワークライフバランスをいかに保つかが常に課題となります。また、現在住む町にベビーシッター制度や病児保育制度がありません。そのため、子どもが病気がかかった時は近所の方にお世話になりました。金銭のやり取りのない関係で快く面倒をみていただき本当に感謝の気持ちでいっぱいでした。大都会ではなかなか経験できない地域の人の温かさを感じている。今日この頃です。

**育児支援員制度の利用について**

幼い子どもを育てている間は、予期せぬ事で定時の作業ができないことも多く、基本的な実験を飼育する事すらおぼつかない状態でした。しかし、支援をしていただいている間は、時間を有効に活用することができるようになり研究を継続することができています。支援に携わる学生には、学業の中では学べない仕事に対する責任を学ぶ経験に思ってもらえたらと思います。

**ワーク・ライフ・バランスの取り方について**

“自分は何を成すべきか、五年後、十年後、何を成し遂げたいのか”を目標として、仕事を生活の二環として見なしています。

**研究支援員制度 支援員学生 福澤さんより**

研究支援活動を通して私は様々な技術と共に入る社会人、研究者としての在り方を学べると感じています。後藤先生の研究に対する姿勢や真摯に実験やサンプリング等を行う姿にはとても強い思いを感じます。こういった女性研究者の支援を行うことは私にとり、とてもいい刺激になり、真剣に実験と向き合う大切さを感じています。今行っている活動は主にパラフィン切片の作製や書類整理などです。考えていたものとは異なり、単純作業の繰り返しでしんどい時もありますが支援員として頑張りたいと思っています。これから行うスマのサンプリングや種々の実験補助を行い、私自身の研究活動に必要なとされる技術面のスキルアップだけでなく、後藤先生の良い部分を自分のものにし、人間性を磨いていきたいと考えています。

### 全てが理想通りではないけれど長い目で目標を立てています。



迷いました。「自分がどうしたいか」を考えるきっかけにはなったけど、その分自分が動かないと何も手に入れない。これまでは、最終的には納得できる会社に決まらなくて、悩んで良かったなと思います。

**院生活を振り返って**

光澤 良かったのはやっぱり研究できたこと。それを通していろんな経験ができたことです。研究や手伝いで、有明海、北九州、四国の河川めぐりをしたり、海外にも連れて行ってもらいました。

悪かったことは、今は悪かったとは思っていませんが、「修士課程を修了して」25歳で就活して、「ヤバくない」って焦っていましたが、でも実際は全然そんなことなくて、職場では「若い若い」と言われています（笑）。

渡邊 私は色んな人と出会えたことが良かったです。学部だけだと部活やバイト先の友達などがメインになると思うけど、院に進学して、学会先で色んな大学の人と出会うことができました。お互いに研究のことを刺激しあったり、他大学の先生と話したりできたことが楽しかったですね。

悪かったことは、朝から晩までずっと研究室に籠って研究という生活だったので、もう少し女の子らしい生活をしたいと思うことですね。

小倉 院ではほとんど授業は無く

て、ゼミや自分のやりたい研究がやれて楽しいです。実験は思った通りの結果でも楽しいし、上手くいかなかったらどうしてだろう？って考えるのが楽しいので結構充実しています。しいて言うなら、男だらけの研究室で若干むさ苦しい位かな（笑）。でもみんな仲良く楽しくのびのびな生活が楽しかった。なんて思ったことはないです。

**大学院入試の勉強**

小倉 大学院ではそのまま研究を続けたかったので、気合入れて勉強というよりは、日々の実験やテストの復習をして過ごしました。1ヶ月くらい前まで、あまり根を詰めませんでした。

渡邊 私は1ヶ月くらい前から勉強を始めました。専門英語に苦しんだので、自分の学部の足さりの点数は把握して勉強しておいた方がよいと思います。

光澤 私は修士の時は頑張った勉強したので楽勝でした。

一同 おー！

光澤 研究室に代々伝わる院試対策ノートを使ったり。久しぶりに机に向かう勉強をしたので、その勢いで色んな資格を取ったりしました。

小倉 修士と博士の試験って、何か違いがあるんですか？

光澤 博士の時は、研究室の先生を追いかけて高知の院に入学しました。修士の時ほど机に向かう勉強はせず、自分の研究の話や面接が



メインでした。

**進学は選択肢を狭くする？**

小倉 研究の道って、経済的な事情やどこで研究するかなどの事情で、だんだん道が狭くなりますよね。博士まで進学することに悩んだりしましたか？

光澤 悩んでましたよ。でも悩んでいたから仕事が見つかった気がするんです。家で閉じこもっているよりは何かしながら悩んでいた方がよいと思います。修士の延長の気持ちで、奨学金をもらって何とか進学しました。

**結婚について**

小倉 光澤さんの結婚の決め手は何ですか？

光澤 学生の頃、研究調査の手伝いで海外に連れて行ってもらったことがあったんです。ほとんど知らない男性たちと2カ月過ごすのは、なかなか大変なことも多くて。気楽

に過ごせる彼氏のありがたみを改めて感じたのがきっかけです。

小倉 結婚後も仕事を続けていらつしゃいますが、何か変化はありますか？

光澤 私は慎重で、すぐ一杯いっぱいになってしまふんですが、仕事でいろんなことがあっても、支えになってもらえるというか、味方になってくれる人ができたなと思っていました。のろけですみません。家事と両立できているかは微妙ですが、結構楽しくやっています。

**参加者からの質問**

◎両親は私の夢を応援してくれつつも心配なようで、就職など手強い道を勧められます。みなさんはそんな経験ありますか？

光澤 私もあります。文系の母には「七年も大学に行つてどうするの？」なんて言われていました。就職も自分が良いと思つたら考えてみた

らいいですし、本命の仕事以外にも、節目目の就職活動の波に乗ってみていいと思います。そこで興味のあるものが見つかることもありますし、「その仕事しかできません！」って思わず、行動を起こしてみてもいいかもしれませんね。ちなみに私は、ドクターに進学する時に、実家でプレゼンをしたことがありまして。両親に「だから私をドクターに行かせてください」と。お二人はどうでしたか？

小倉 私は母親もリケジョだったせいか、院進学も就職も特に何も言われませんでした。進路に関しては全部任せると感じました。

渡邊 特に反対はされませんでした。が、親は四年で大学を卒業しているの、なぜ院に進みたいのかよく分からなかったみたいで、「院を出て何になるの？」とずっと心配されてました。でも自分がやりたいことだから、それはそれで割り切っていました。





～院生×卒業生座談会 その2～



愛媛大学理工学研究科OG  
伊東さんの講演

**座談会メンバー**  
伊東 景子さん  
愛媛大学理工学研究科機械工学OG。  
在学中の研究内容は「糸の運動解析」。  
マツダ株式会社パワートレイン開発本部  
走行・環境性能開発部第二走行・環境性能  
開発グループ所属。車の性能向上に取り  
組むテストドライバー兼、女性視点タスク  
活動担当として勤務。  
サイエンスひめこ(理系女子学生グループ)  
渡邊さん  
理工学研究科二回生(工学系)。専門分野  
とは直接関連のない企業に就職予定。

**新(あたらし)さん**  
理工学研究科二回生(工学系)。研究室で  
女性は自分一人という環境。  
**仕事で楽しい時、楽しくない時**  
伊東 最近の車は電気制御になってきて  
いて、数字をひとつ変えれば車の動きが  
変わります。自分が想像していたアクセル  
の踏み量で、思った通りの加速度が出た時  
は「ハマった」と嬉しくなりますし、同僚  
からも褒められるとすごく楽しいです。  
実際に販売に出して、お客さまからも好評  
だったりすると、思わずガッツポーズです。  
たしかにいつも楽しいわけじゃないし、比べる

**工学系リケジョが考える  
「仲間」と進学と働きかた。**  
大学院進学を選んだ卒業生と現役院生による座談会第二弾は、工学部編です。  
自動車メーカーで開発の仕事に携わる先輩リケジョとの座談会に、  
多くの学生が参加しました。女子学生からは女子の少ない環境について、  
男子学生からは大学生活や仕事についてなど多数の質問が寄せられました。



必要とされる人材になるというのが、大事  
なスタンスだと思います。  
今の学生諸君は就活に振り回されています  
が、私は大学を卒業して必ずしもすぐに  
働かなくてもいいと考えています。社会が  
必要とする人材は多様で、企業は順応型  
の人だけを求めているわけではありません。  
その人のタイミングや巡りあわせに身を  
任すという気持ちがあっても良いと思っ  
ます。大学のリーダーズスクールやキャン  
パスボランティアに関わっていた卒業生の中  
には、起業家になっている人が多いです  
が、そういう人ってどうしてもお金に縁が  
ない状況になりがちです(笑)。しかし、さき  
話したように根拠なき自信で何とかしな  
いでいますよ。  
もう一つ大事なことは、自分で決めたことに  
責任を取ること。社会や親が期待する無言  
の圧は、僕らの時代から今もあると思っ  
けど、たとえ親の期待に添うような進路  
を選んだとしても、自分で決めたことには  
責任を取らなければなりません。たとえ  
卒業研究のテーマも学生自身ではなかなか  
決められないでしょうが、「先生に言われた  
から」なんて言い訳を絶対言っちゃいけない  
のと同じですね。  
**先のことを考えると不安です**  
神原 周りにも研究職を目指す人は多い  
のですが、ちゃんとした職に就けるか心配  
です。研究職に就くにあたって何か心掛け  
があるのでしょうか？  
学長 逆説的ですが、本当に研究職に就き  
たいなら「何も考えない」ことです。つい目  
先のことを考えてしまうのだけど、それ  
では研究に向かうエネルギーが削がれて

のはすごく難しいですね。大学で実験して  
いた時と大きく違うのは、ものすごくコスト  
意識を持つようになったこと。学生の頃は  
深く考えず、研究に必要な備品の購入を  
先生にお願いしていました。車を作る  
のにはものすごくコストが掛かるうえ、  
熱意を持って部品を作ったとしても、製作  
コストが一円上がっただけですぐダメになっ  
ちゃいます。そういうところで「楽しくない  
な」と感じます。あとは、大きな組織だと  
下からの意見は通りづらいこと。どんなに  
一生懸命作り込んでいても、方針が変わ  
ればガラッと変えなければいけない。同じ  
ようなことはどんな組織でもあると思っ  
ます。  
渡邊 今まで一番辛かった仕事は何で  
すか？  
伊東 仕事上はチームとして、先輩や後輩  
と一緒に作っていくので、自分だけが辛いとい  
うことは無いですが、昇進試験は自分と  
の戦いなのでそちらの方がしんどいです  
ね。仕事終わりに勉強していると、院生  
時代に睡眠時間を削って研究したハード  
な日々を思い出します。  
**「工学部」女子が少ないけど？**  
渡邊 女子学生が少ないことで、在学中  
大変だったことはありませんか？

伊東 うーん。あまり困ったことは無かった  
ですね。しいて言えば研究室選びの時、  
最初に希望していた所の先輩から「ここは  
女子には危ないよ」と言われたことでしょ  
うか。安全対策が大事な女子も男子  
も同じなのに、そういう風に周りが先に  
決めてしまおうと動けなくなっちゃいますね。  
新 私の研究室は、みんな同じように接し  
てくれるので特に意識していません。ただ、  
高い所の物や重い物を持つときに不便  
だなって思うことはあります。  
渡邊 私も同じで、体力面で自分の限界を  
感じる時がくやしいです。伊東さんが講演で  
おっしゃっていた社内規定で、「女性は15キロ  
以上重いものを持つてはいけない」というの  
がありました。そういうお互いを思いやる  
「区別」はありがたいなと思いました。  
渡邊 男性が多い環境で、付き合っていく  
ために気を付けていることはありますか？  
伊東 男性たちが盛り上がりつつある輪の中  
に、「自分はいれないだろうな」と思うこと



～学長インタビュー編～



**学長、進路の決め方について  
教えてください！**  
「進路は早めに決めたほうが良い?」「将来の計画を立てないとマズイかな?」  
進路をはっきり決めていない学生の皆さんの中には、迷ったりあせったりして落ち  
着かない気持ちの方も多いのではないのでしょうか。二人のリケジョが学長にそんな  
気持ちをぶつけたところ、返ってきたのは意外にシンプルな言葉でした。

**座談会メンバー**  
サイエンスひめこ(理系女子学生チーム)  
森本さん  
農学研究科一回生。研究分野を活かし、  
菜園全体をまとめる「栽培管理者」を目  
指して就職活動中。  
神原さん  
SSC生命科学工学コース三回生。理学部  
生理学研究室所属。将来は研究職を志望。  
**結婚したら仕事を辞める?**  
森本 就職面接で、女性は「結婚したら  
仕事を辞めますか?」と必ず聞かれるそ  
うです。就職した友達は「結婚して早く辞め  
たい」なんて言っているし、両立の難しさを  
考えてしまいます。  
学長 そういえば新聞にも家庭に入りた  
い女性の割合が増えているという記事があつて  
時代の逆行に驚きました。就職難などの  
影響からか、明るい未来を描けないとい  
ついでにの幸せに埋没してしまうのかも  
かもしれません。  
お二人がしているひめこの活動は、仲間  
づくりや将来のモデルを知るきっかけに  
なっていると思いますが、家庭と職業の  
両立は最終的には個人が覚悟を決めなけれ  
ばならない問題です。「何とかかならん」と  
いう根拠の無い自信も必要だと思います。  
森本 その自信は就職する前に持つておく  
べきですか?  
学長 大学時代に何かを生懸命やっていた  
人は、それだけで何らかの手応えを感じて  
いるはず。そのことが自ずと「社会で  
役に立つ人材」に結びついています。就活の  
ポイントはある程度知っておくことは大事  
だと思いますが、それに依存しすぎるのは  
良くありません。在学中に自ずと社会から

必要とされる人材になるというのが、大事  
なスタンスだと思います。  
今の学生諸君は就活に振り回されています  
が、私は大学を卒業して必ずしもすぐに  
働かなくてもいいと考えています。社会が  
必要とする人材は多様で、企業は順応型  
の人だけを求めているわけではありません。  
その人のタイミングや巡りあわせに身を  
任すという気持ちがあっても良いと思っ  
ます。大学のリーダーズスクールやキャン  
パスボランティアに関わっていた卒業生の中  
には、起業家になっている人が多いです  
が、そういう人ってどうしてもお金に縁が  
ない状況になりがちです(笑)。しかし、さき  
話したように根拠なき自信で何とかしな  
いでいますよ。  
もう一つ大事なことは、自分で決めたことに  
責任を取ること。社会や親が期待する無言  
の圧は、僕らの時代から今もあると思っ  
けど、たとえ親の期待に添うような進路  
を選んだとしても、自分で決めたことには  
責任を取らなければなりません。たとえ  
卒業研究のテーマも学生自身ではなかなか  
決められないでしょうが、「先生に言われた  
から」なんて言い訳を絶対言っちゃいけない  
のと同じですね。  
**先のことを考えると不安です**  
神原 周りにも研究職を目指す人は多い  
のですが、ちゃんとした職に就けるか心配  
です。研究職に就くにあたって何か心掛け  
があるのでしょうか？  
学長 逆説的ですが、本当に研究職に就き  
たいなら「何も考えない」ことです。つい目  
先のことを考えてしまうのだけど、それ  
では研究に向かうエネルギーが削がれて

神原 たえば結婚 出産などでキャリア  
を中断しても、企業であればちゃんと社会  
に出て働いている実績が残りますが、大学  
の場合は学ぶことを止めちゃうと「自分に  
残るものはあるのかな?」と考えてしま  
います。  
学長 キャリアのことを考えた時に、つい  
「何歳までに〇〇をして…」と計画を立て  
たくりますが、自分の将来を着実に見通  
さないといけない部分と、あえて目をさげ  
研究に没頭する部分も必要だと思います。  
それは神原さんの目指す研究職に限らず、  
森本さんが目指すような管理者の仕事  
だってそうかもしれない。単に一つの部署で  
働いていたのでは得られない視野の広さを  
養うには時間がかかるだろうしね。長い  
人生、横道に逸れることを恐れてはいけ  
ないと思いますよ。  
学長、ありがとうございました!







# 女性研究者支援



# 男女共同参画推進

## [平成22年度～平成24年度] 持続的に女性研究者を 育成する仕組みづくり

平成22年度～平成24年度は  
文部科学省「女性研究者研究活動支援事業」に採択され  
主に女性研究者支援に取り組みました。



## [平成25年度～]

## 男女共同参画と女性活躍の場拡大に 向けた新たな取り組みへ

事業終了後は女性研究者支援に加え、男女が共に働きやすい  
環境づくりを目指して活動していきます。

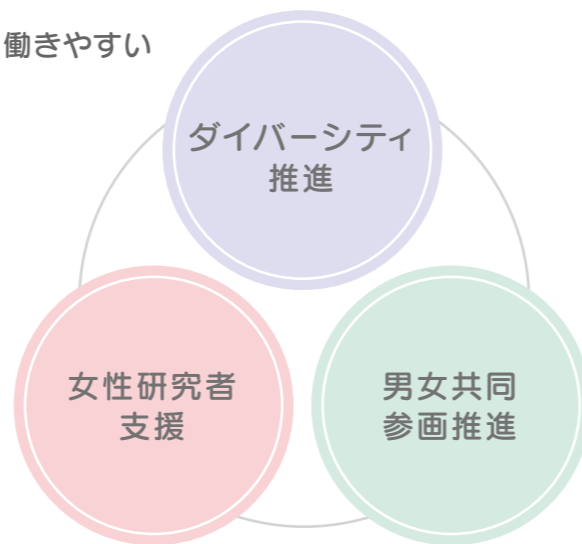
男女共同参画推進のための環境整備

女性活躍推進のためのキャリア支援

地域連携・情報発信

詳しくはホームページをごらんください

<http://hime.adm.ehime-u.ac.jp>



もありませんが、そこは割り切るしかないし、あまり意識していません。高校の時から理系だと、逆に女子の中に入る方が気を遣ったりします。

新 私も研究室で女子は一人で、よく「大変でしょう」と言われますが、私自身そんなに気にしていません。その環境に馴染んでしまうと、男性というより、同じ研究をする「仲間」という意識の方が強い。そして「仲間」としてではなく、人間として付き合うようにしているという感じだと思います。

渡邊 学部生の皆さんも研究室に入ると戸惑うことも多いと思いますが、お一人のようにある境地に達するのではないのでしょうか(笑)。それでも相談しやすい先生や先輩を見つけておいたりして、自分が一番楽でいられる環境づくりは大切だと思います。

### 学部生と院生生活の違い

伊東 学部で卒業するのと同じ研究するのは半年位ですが、院生は三年間研究に費やせますよね。その期間は充実していましたか？

伊東 勉強だけをやるのはあまり好きじゃなかったんです。みんな研究が終わったらゲームしたりしていました。私は生活費確保のためにも、大学が終わったら家庭教師や居酒屋などでバイトをして、外の世界を経験するようにしていました。

伊東 研究に関しては、当時は深く考えずに手広くやっていました。今考えたら系統立てて、もう少し考えてやれば良かったと思います。バイト中は家庭教師で高校生、スーパーで色んな世代の人を相手にして、「コミュニケーション能力が磨かれました。働き始めると、人と接することが多くなるので、誰と

### 参加者からの質問

でも話せるように心掛けています。就活でも慣れていないと急には話せないですね。

◎コミュニケーション能力を磨くにはどうしたいですか？(女子学生)

伊東 何でもいいんですよ、深く考えなくても。コミュニケーションといっても、相手を論破する力が必要な時もあるし、会議をまとめる力が必要な時もある。その場で必要なものを考えればいんだと思います。

◎海外出張も多いとのことですが、語学勉強をしていますか？(男子学生)

伊東 今は仕事に追われて、通勤時にリスニングする程度ですが、話せないの身振り手振りで伝えて仕事上は何とかがしています。学生の頃は、学内の自習ソフトで練習していたらTOEICの点数が百点伸びた



こともありました。あの時も少し勉強を続けていたら...と後悔しているの、英語の勉強は学生の時に絶対しておいた方が良いと思います。近頃は、大抵の会社で英語は必須ではないでしょうか。うちの場合は、昇進にもTOEICの点数の基準があるので、そこが昇進のネックになることもあります。

◎男性の中で働いていて、女性の「ここは負けていない」と思うところはある？(男子学生)

伊東 車づくりに女性視点を活かす「女性視点タスク活動担当」の立場から例を挙げると、女性は「不安」にすぐ弱いけど、それを一歩踏み越えるものすごく強くなるんです。たとえば出産すると母はたくましくなるとか。もう一つは、コミュニケーション力。男性は結構攻撃的なところがあって買物

でも家電製品の知識量を店員と張り合ったりしますよね(笑)。でも女性はそういう時、「コミュニケーションを取って上手く立ち回ることができるとか。そういう点は強みじゃないかと思えます。

◎男性へのアドバイスがあれば教えてください。(男子学生)

伊東 女性は細かいところに気が付くのが特長で、それに比べると男性は大まかな人が多いような気がします。なので細かい配慮を心掛けてください。

渡邊 だから女性も男性も両方いるチームというのがベストなんじゃないかなという気がします。

伊東 そうですね。



いいね!👍ハッピーライフ

国立大学法人愛媛大学 女性未来育成センター

Women's Future Development Center, Ehime University

〒790-8577 愛媛県松山市文京町3番（愛媛大学城北地区教育学部4号館3階）

Tel/Fax: 089-927-8602 E-mail: [hime@stu.ehime-u.ac.jp](mailto:hime@stu.ehime-u.ac.jp) <http://hime.adm.ehime-u.ac.jp>